

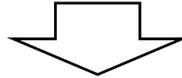
1. 研究の全体構想

学校教育目標

生命を尊び、自主と創意にみちた
人間性豊かな児童を育成する
目指す円山っ子像
たくましい子 考える子 働く子 思いやりのある子

教育界の方向

主体的・対話的で深い学びの実現
・知識・技能の習得
・思考力、判断力、表現力等の育成
・学びに向かう力、人間性等の涵養



研究主題

夢に向かって、たくましく生きる円山っ子
～つながる探究的な学び～

2. 研究主題について

夢に向かって、たくましく生きるとは

- ・ になりたい自分を思い描き、主体的に行動する。(夢や目標をもつ)
- ・ 自分の良さや可能性を認識する。(自己を生きる)
- ・ 他者を思いやり、認め、尊重する。(他者と生きる)
- ・ 多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、これからの社会の創り手となる。
(社会を生きる)

探究的な学びとは

日常生活や社会を広い視野で捉え自己の生き方やあり方を考えながら、自ら課題を設定し、その課題と向き合う中で情報収集や整理・分析を行い、さらにはそれをまとめたり表現したりすることを繰り返すことで、自分自身の課題や思考が更新され続ける学び。

子供たちがこれから生きる社会は、AI（人工知能）やVR（仮想現実）、メタバース（3次元仮想空間）などが現実と溶け合う全く新しい社会に向かうとも考えられている。このような予測不可能といわれる時代を生き抜いていかななくてはならない子供たちに必要な「学力」とは何か、教師とともに将来を創出していくこうとする姿勢が重要だと言える。

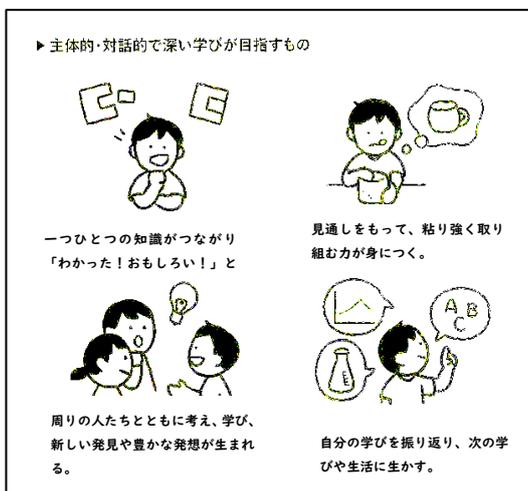
本校では、令和5年度から研究主題「夢に向かって、たくましく生きる円山っ子」のもと、課題解決型学習である「探究的な学び」の手法を教科横断的に取り入れる研究に取り組んできた。「探究的な学び」とは、「課題をもつ」-「調べる」-「深める」-「表現する」という過程の中で、自ら課題を立て、考え判断し、主体的に問題を解決しようとする学びの姿である。令和6年度は、副主題を「探究的な学びを追求するための課題設定」とし、探究的な学びの四つの過程の中で、「課題をもつ」に焦点を当てて授業改善に取

り組んできた。しかし、「課題をもつ」ことだけに焦点化した授業になってしまい、その後の「調べる」「深める」「表現する」の過程が見えづらく、本校の研究を深めることができなかった。また、令和6年度の学習状況結果からも、本校の子供は、課題の解決のために工夫して学習に取り組んだり、自分の考えを他者に伝えるように工夫して発表したりする力が弱いことが分かった。

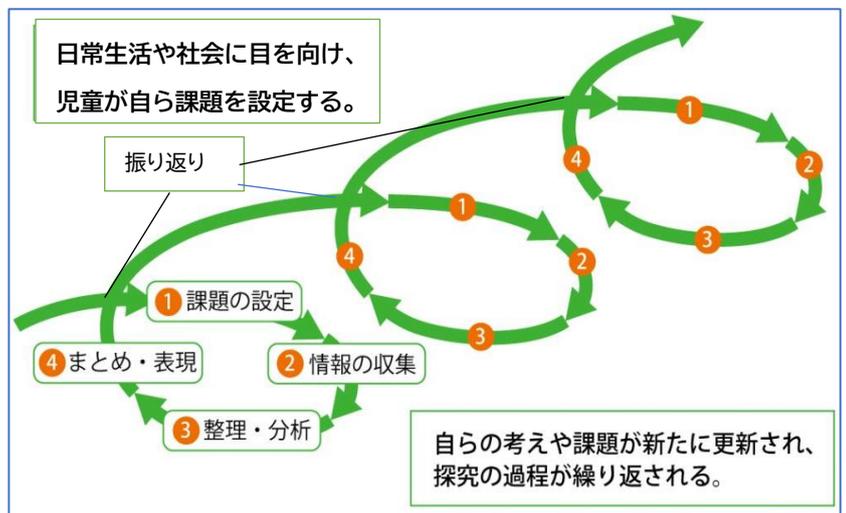
そのため、今年度は探究的な学びの四つの過程のうち、「調べる」「深める」「表現する」の三つを重点的に授業作りに取り組んでいく。今年度は副主題を「つながる探究的な学び」とした。昨年度の研究（「課題の設定」）における学びも生かしながら、四つの過程を意識した探究的な学びを目指す。各教科での単元と単元をつながり意識したり、昨年度と同様に生活科・総合的な学習の時間と各教科をつながり意識したりしながら探究的な学びを進めていきたい。また、子供同士のつながりだけでなく、教師や先人、地域社会、歴史・行事など子供の学びが様々な「人・もの・こと」とつながることで更に学びが深まると考えられる。子供の学びがつながることで、様々な面から解決方法を考え、試行錯誤しながらよりよい答えにたどり着くことが期待できる。生活科・総合的な学習の時間や各教科で単元設定や学習展開などを工夫しながら研究に取り組んでいきたい。

3. 今年度の研究構想

探究的な学習における児童の学習の姿



参考資料：文部科学省



【探究的な学びの4つの段階】

※太線は今年度重点的に取り組む内容

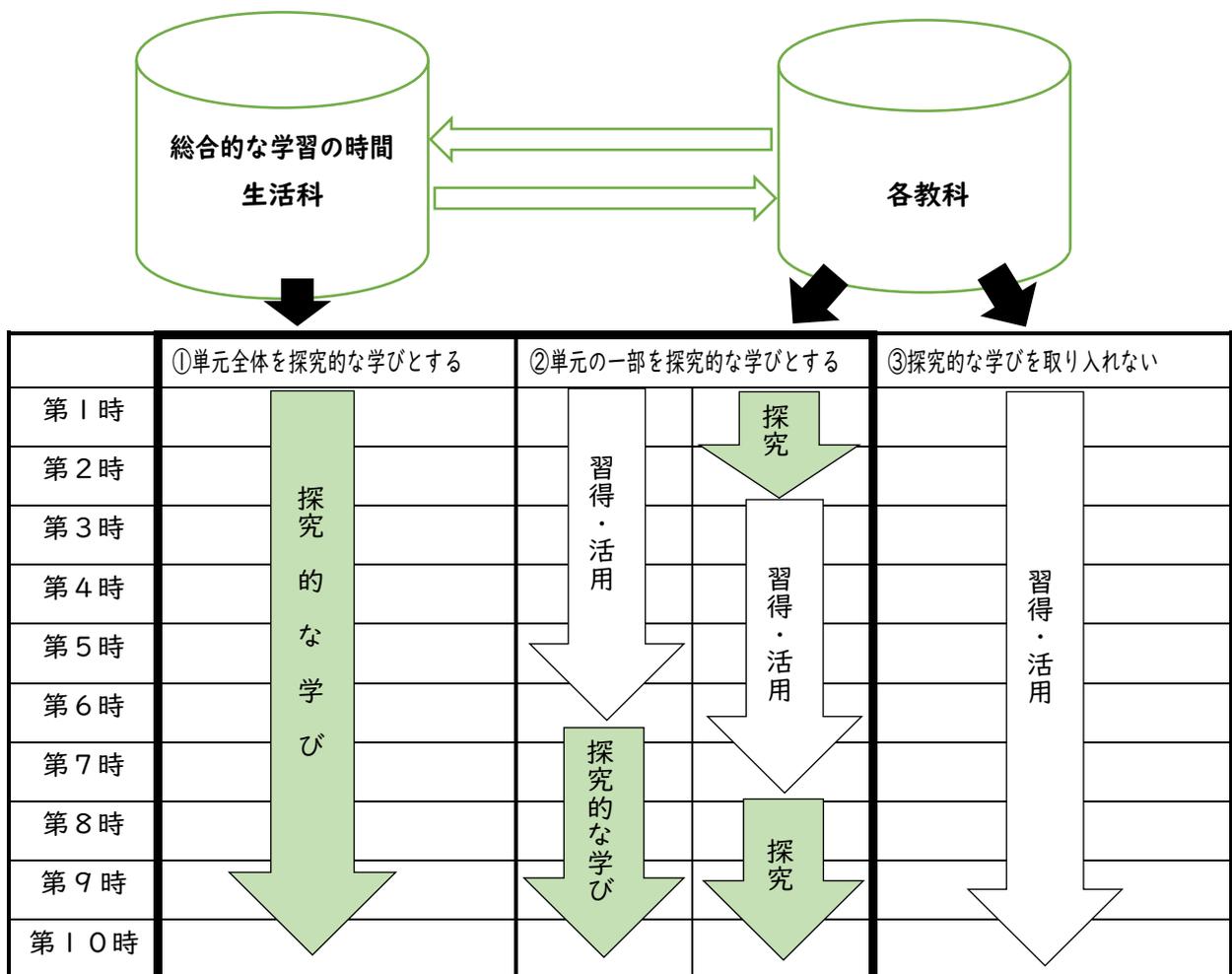
	◎ポイント ○例
①課題の設定	◎教師の教材開発、考えの整理（マインドマップなどの思考ツールの活用）、仮説、計画 ◎問題と課題の違い：あるべき姿と現実の状況とのギャップが「問題」で、その問題を解決するために具体的に取り組むことが「課題」 ○写真やグラフ等の資料、体験活動、リハーサル、意見交換、KJ法、対象への憧れ、ウェビング
②情報の収集	◎調査の手順、情報リテラシー ○図書資料、インターネット、現地調査、聞き取り調査（インタビュー）、アンケート、電話、メール、手紙、観察・実験
③整理・分析	◎因果関係の整理（思考ツールの活用）反対意見や多角的な視点 ○地図、表、チャート図、KJ法、グラフ、ベン図、コンセプトマップ、座標軸 ○グループワーク、ディスカッション、ディベート
④まとめ・表現 振り返り	◎発表の場の選択・決定（目的・対象者など）、自分の目標に照らした次につながる振り返り ○プレゼンテーション、ポスターセッション、動画、新聞、パンフレット、ものづくり、イベントの開催

【探究的な学びを可能にする教師の関わり方の例】

※「分かりやすい」形で提示するだけでなく、「分からない」「難しい」ことそのものを楽しめるように手助けする。

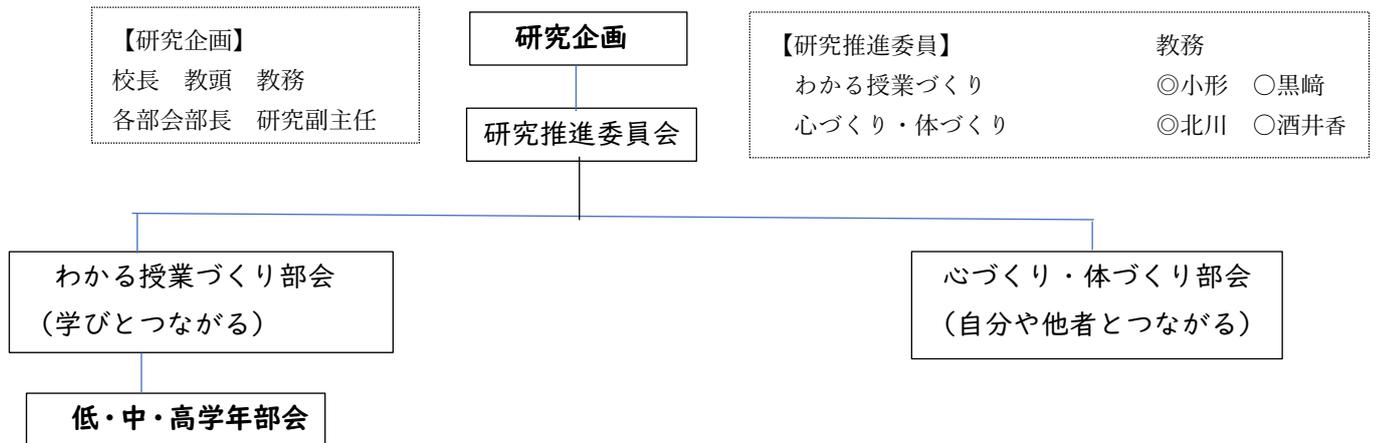
探究の段階	問題と課題設定	課題解決の仮説を立てる	計画の実施(実行とフィードバック、考察)
児童に望む姿	素直に正確に物事を吸収する	現状や常識にとらわれずに新たに仮説を立てる	持続的に検証を行う
教師の役割	インストラクター(教える)	ファシリテーター(引き出す) ジェネレーター(一緒に参加する)	メンター(背中を押す)
教師の関わり方	情報を正確に収集・分析するために指導する	人と違っていても楽しみながらアイデアをあふれさせる	行動を後押しする
	誰でも自由に意見が言える雰囲気づくり	自分の探究以外との関連も探しながら、視野を広げてアイデアを洗練させる	よりよい未来を意識させる言葉がけをする
具体的な声かけの例		「どうしてそう思ったの？」 「もう少し詳しく教えて」 「それ面白いね」 「他に～もあるけど～はどうかね」	「やってみたら？」 「きっとできるよ」 「これができれば～になりそうだね」

【今年度の研究イメージ図】



4. 研究組織

スクールプランをもとに、「わかる授業づくり」、「心づくり・体づくり」の2つの部会を柱に推進する。



【部会メンバー】

学年	授業づくり部会 (各教科)	授業づくり部会 (生活科・総合)	心づくり部会	体づくり部会
1年	酒井ち	山口	田中	
2年	重田	○黒崎		森下恵
3年	森下拓	長田		橋谷
4年	◎小形	森本	◎北川	
5年	滝本	佐藤	○酒井佳	
6年	前田陽	吉川		池森
支援学級		前田音	池田	正玄
無担	宮		野尻、藤田	

5. 研究の主な内容と方法

わかる授業づくり部会	心づくり・体づくり部会
<ul style="list-style-type: none"> ○探究的な学びを学年で計画立案 (5月) 実践の集約 (10月、2月) ○各学年、支援学級での提案授業 (低・中・高学年部会で指導案検討と事後指導) ○総合的な学習の時間、生活科を軸に教科横断的な教育課程の編成 (年間指導計画への表記) ○全国学力調査結果を考察 (研究・国語・算数・理科主任) ○キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶運動の企画、推進 実践の集約 (10月、2月) ○体力づくりの企画、推進 実践の集約 (10月、2月) ○教科担任制を取り入れ、子どもを多面的に捉え指導や支援に生かす。(複数の目でみる。) 児童理解の共有化と支援体制の充実。 ○アンケート「心元気かな」を毎月行い、いじめや不登校の早期発見と未然防止を図る。 ○「おやくそく10」(年3回)、円山小独自のスマートルールの実施を通し基本的な生活習慣の定着を図る。 ○人権教育の推進 ○保健指導の充実 ○異学年交流の企画・運営 ○中学校区との連携、園小接続

【わかる授業づくり部会】

○提案授業について

- ・学年で1つ研究主題に沿った授業を行う。(略案でよい。授業後は、考察と記録写真を記載して、teams上で知らせる。指導主事訪問の提案授業は学年1授業に含む。)
- ・1授業の指導案検討と事後検討会を、低・中・高学年部会で行う。支援学級の検討会には関係する学年が入る。授業には他の教員も積極的に参観し、検討会に参加する。(部分的な参観でもよい。)特別支援学級の検討会には、交流学年が入る。
- ・指導主事訪問の指導案検討会(後期に1回)は、各部会 → 全体研究会で行う。

○現職教育について

希望を聞いて検討する。

【心・体づくり部会】

○心づくりについて

- ・明るい挨拶、自分から挨拶ができる学校作りをする。
- ・児童理解…複数の目で児童を指導、支援する。(教科担任制、児童理解…年3回児童の特性、変化、支援のあり方の情報共有、週1回その週にあった問題行動や登校状況についての情報共有)
- ・健康観察、「心元気かな」のオンライン化を進め、児童の心の様子について担任が素早くキャッチし、細やかな声かけにつなげる。
- ・スマートルール…検討中。

○体づくりについて

- ・児童の体を動かす機会を増やし、体力増進を進める。

○異学年交流の企画・運営について

- ・校内での異学年交流について総合や生活科などの発表・教え合いなどを進めていく。

6. 研究の検証

- ・各部会で、各学年の取組を学期末にまとめておく。年度末に各部会で取組についての成果と課題を話し合う。2月の全体研究会で各部会の取組を発表し、共通理解を図る。
- ・学校アンケート項目の結果をもとに各部会の重点目標を検証する。

(その他)

- 研究推進委員会の予定 → 4月、2月
- 三部会の予定 → 4月、10月、2月